

連携・協働のカ・タ・チ

令和元年7月16日発行 福島県教育庁会津教育事務所



子ども・先生・ボランティアのみんながWin・Win・Win!

～ 宿題の「マル付けボランティア」～

喜多方市立塩川小学校

塩川小学校では、今年度からコミュニティ・スクールを導入し、地域と共にある学校づくりを推進しています。今回は、その取組の一つ「マル付けボランティア」について紹介します。教員を退職された地域の方々に「マル付けボランティア」として、子どもたちの宿題のノートやプリントのまる付けや評価コメントの朱書きを行っていただいています。現在、5名の方々が午前中2時間程活動しており、各学年、週に1回ほど日替わりで宿題を見ていただいています。子ども・先生・ボランティアそれぞれに見られる効果について紹介します。

Win!

- ☆時間と心にゆとりが生まれて子どもと向き合う時間（対話、遊び、教材研究等）が増える。
- ☆多忙化・多忙感の解消につながる。
- ☆元教員のボランティアから宿題の内容や出し方についてアドバイスももらえる。

先生



子ども

マル付け
ボランティアの様子



Win!

- ☆宿題をきめ細かに見てもらうことで、間違い等を確認することができる。
- ☆朱書きのコメント（アドバイス）を読んで学習を振り返り、学習の仕方を改善することができる。
- ☆朱書きのコメント（称賛や励まし）を読んで、学習意欲が高まる。

ボランティア



Win!

- ☆子どもたちや先生方の喜ぶ顔を見たり、感謝の声を聞いたりして「やりがい」を感じることができる。
- ☆自分の経験や知識を生かしながら地域の学校に貢献することができる「生きがい」を感じることができる。



この実践から学ぶポイント!

- ☆地域におられる元教員の方々の“マンパワー”を活用して子ども・先生・ボランティアのそれぞれがWin・Win・Winとなる効果的な取組です!